

平成 28 年度第 2 回技術委員会議事録

会議名	金属・セラミックス技術委員会	主催者：電気学会
日時	平成 28 年 7 月 14 日(木)15:30～17:00	場所：(社)電気倶楽部 B 会議室
出席者	吉川(横国大)、木村(古河)、岩城(日立)、一瀬(電中研)、窪谷(東芝)、高木(東京工科大)、水野(鉄道総研)、日高(産総研)、石崎(埼玉工大)、藤巻(名大)、伴野(NIMS) 【敬称略】	

【配布資料】

- 1) 280714-1 前回 (H28/4/14) 議事録 (案)
- 2) 280714-2 電気学会 金属・セラミックス技術委員会 名簿
- 3) 280714-3 平成 28 年度 金属・セラミックス技術委員会役割分担
- 4) 280714-4 位相エンジニアリングに基づく低温エレクトロニクス調査専門委員会活動方針及び報告書
- 5) 280714-5 技術委員会の解散
- 6) 280714-6 技術報告のテンプレート
- 7) 280714-7 電気学会研究会資料
- 8) 280714-8 超電導人材育成事業「超伝導スクール 2016」開催について
- 9) 280714-9 第 6 回超電導材料若手研究交流会開催について
- 10) 280714-10 平成 28 年度 活動状況
- 11) 280714-11 平成 28 年度 金属・セラミックス技術委員会活動計画
- 12) 280714-12 平成 29 年度全国大会シンポジウム課題提案取りまとめのお願い
- 13) 280714-13 金属・セラミックス技術委員会中期活動方針

【議事】

1. 前回議事録の確認
 - ・ 資料 280714-1 に基づき前回議事録の確認を行い承認された。
2. 名簿の確認
 - ・ 資料 280714-2 に基づき名簿が確認された。
3. 役割分担の確認
 - ・ 資料 280714-3 に基づき各委員の役割分担について確認された。委員委嘱の手続きが必要な委員は手続きを進める。
4. 調査委員会活動状況
 - ・ 資料 280714-4 に基づき、藤巻調査専門委員長より位相エンジニアリングに基づく低温エレクトロニクス調査専門委員会活動状況が報告された。9 月の終了までに調査委員会をメゾスコピックな領域や量子コンピューティングなどに関して 1 回もしくは 2 回開催したい。調査委員会をリスタートさせる場合、委員長が再任されてもよい。
 - ・ 9 月終了時に解散報告書を提出する (資料 280714-5)。詳細、テンプレートは以下のページにある。
http://www.iee.jp/?page_id=5618

解散時、技術報告書の提出を求められるが、最大6か月の猶予がある。従って本調査委員会の場合は年度末が最終締め切りとなる。この間、整理委員会を立ち上げるか、新規調査委員会を立ち上げる旨を伝え猶予の許可を得る。

- ・ 技術報告書は、販売されることを想定して作成する。セミナーや研究会にて販売する。セミナーは技術委員会か東京支部により主催される。
- ・ 技術報告書の販売成績が良いと表彰される。全体的には販売数は少ない。

5. 論文特集号の企画について

- ・ 高木委員より A 部門 12 月特集号の論文査読状況が報告された。査読期間の目安は依頼後、1 か月であるので、査読を担当されている藤巻先生、吉川先生には急ぎご回答をお願いしたい。

6. 研究会の共同開催について

- ・ 6 月 28 日、29 日と超電導機器研究会との共催で阪大にて合同研究会を開催した。集客に力を入れた結果、発表件数が 28 件と非常に活況であった。秋には、今度は金セラ委員会が主体となって同規模の合同研究会を開催することが望ましい。通年、金セラ委員会では ISS に合わせて若手研究交流発表会を開催してきたが、本年度は ASCOT の超電導人材育成事業「超伝導スクール 2016」の開催（日程的には ISS の前後）される予定であり、若手研究交流発表会と重複する。これに関し、金セラ委員会が上記事業を主体的に運営する形での合同開催ができないか議論された。
- ・ まず旅費について議論された。上記事業では、ISS (12/11-15) にて発表し、前日の 12 日に行われる講義への参加、終了後 16 日の若手ポスター発表会のすべてに参加する学生には旅費が支給される。こうした状況から鑑みて、形としては、主催を ASCOT とし、運営を金セラ委員会（共催）とするのが妥当か。→可能だろう。ただし発表登録、論文入稿は電気学会のシステムで行う必要がある。
- ・ 学生の負担を減らすため、資料は 2 ページ程度でよい。
- ・ 電気学会研究会のシステムに従うならば、参加費はとらないが、資料代は必要。これを産総研側でサポートできないか？
- ・ 著作権の関係上、ISS での発表タイトル、アブストラクトの内容をそのまま流用することは避ける。
- ・ 電気学会研究会のシステムで行った場合には、電気学会の優良発表賞の対象となる。各技術委員会から割り当て人数（研究会での発表件数に応じて決められる）分を推薦する。
- ・ 本件の金セラ委員としての担当者を、ASCOT にも関わっている日高委員にお願いする。
- ・ 本件の運営について、吉川委員長と ASCOT の岡田氏とで打ち合わせる機会を設ける。日高委員に調整をお願いする。

7. 平成 28 年度 金属・セラミックス技術委員会活動計画

- ・ 資料 280714-11 に基づき、吉川委員長より説明があった。SSV は電気学会共催とする。結局電気学会の費用を使用せずに済みそうである。共催と明記することに関しては、A 部門長が OK を出していけば問題ない。前に申請はしてある。
- ・ 古河電工日光事業所見学について、木村委員より許可は下りそうだとの報告があった。日程を 2017/1/12(木)-13(金)に仮決めする。見学会に合わせ、現地にて技術委員会を開催する。
- ・ 全国大会シンポジウム企画に関しては、応物や通信学会と重なっているなど、日程的に厳しく見送

りとする。

- A 部門大会(九工大 9/5~9/7)に関しては、石崎委員にセラミック関係のコミュニティーとの交流を粛々と進めて頂くようお願いしたい。石崎委員より、応物、国際会議と重なっていることが懸念されるとのコメントがあった。
- A 部門大会での金セラ委員ポスターの紹介を石崎委員にお願いする。